

# 中道南遺跡（なかもちみなみいせき）

所在地：土浦市中字中道 887 ほか

調査期間：令和6年1月1日～8月31日（令和5・6年度）

調査面積：5,400㎡（令和5・6年度）

委託者：国土交通省関東地方整備局常総国道事務所

調査原因：一般国道6号牛久土浦バイパス建設事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（土浦事務所）

TEL：029-225-6587 <https://www.ibaraki-maibun.org>



HP



X

## 遺跡の概要

中道南遺跡は、土浦市の南部に位置し、花室川右岸の標高13～25mの台地上に立地しています。

令和6年1月から8月まで、公益財団法人茨城県教育財団が調査を実施し、古墳時代・奈良時代・平安時代の集落跡を発見しました。確認した竪穴建物跡からは、たくさんの土器片や土製品、金属製品などが出土し、人々の暮らしが長期間にわたって断続的に営まれていたことが明らかになりました。



中道南遺跡と周辺遺跡

（『いばらきデジタルまっぷ』に加筆）

## 調査の成果

今回の調査では、古墳時代・奈良時代・平安時代を中心とする竪穴建物跡70棟などを確認しました。特筆されるのは、平安時代の第18号竪穴建物跡から出土したとうまりがたごうす塔鏡形合子の蓋です。

塔鏡形合子は、法隆寺の供物や正倉院の宝物として納められている貴重な物で、調査した遺跡から出土した例は、につこうなんたいさんさんちよう栃木県日光男体山山頂遺跡とこじま・やなぎはら長野県小島・柳原遺跡群に次いで、全国で3例目、茨城県では初となります。貴重な塔鏡形合子の蓋が、なぜ中道南遺跡に持ち込まれたのか、大きな謎です。



令和6年度調査区の近景（南から）



出土した塔鏡形合子（蓋）



この資料は調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。引用・掲載はご遠慮願います。

特徴的な遺構・遺物



第3号竖穴建物跡出土の墨書土器「○上」

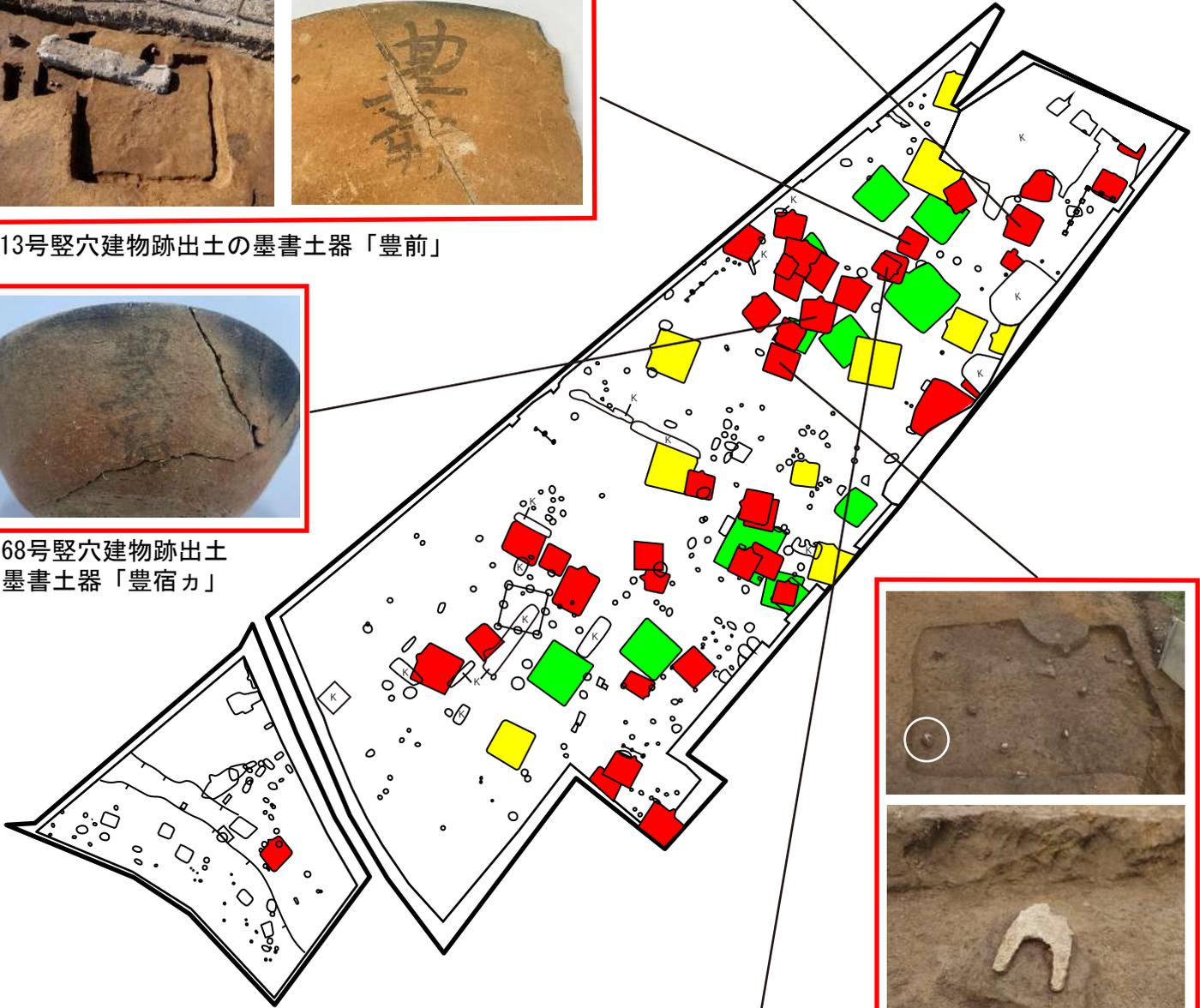


第13号竖穴建物跡出土の墨書土器「豊前」



第68号竖穴建物跡出土の墨書土器「豊宿カ」

- 古墳時代
- 奈良時代
- 平安時代



第57号竖穴建物跡出土の鋤先



第18号竖穴建物跡出土の塔鉢形合子（蓋）